

アユ魚探調査にあたるワカサギ魚群の影響

西森 克浩

◆背景・目的

当該が行っているアユ魚探調査における1月～2月の魚群には、ワカサギ魚群が混在することが指摘されている（平成11年度滋賀県水産試験場事業報告）。このことを過去のデータから裏付けることを試みた。

◆成果の内容・特徴

- ・平成5年以前は、1月から2月にかけて魚群数が減少した年はなかった（表1）。
- ・琵琶湖でワカサギが漁獲されはじめた平成6年以降は、11年間で6年が1月から2月にかけて魚群数が減少した（表1）。
- ・1月から2月、3月とワカサギの産卵期が近づくにつれ、前年のワカサギ漁獲量と魚群数の相関が薄れた（図1、2、3）。

◆成果の活用・留意点

1月から2月にかけて魚群数が減少する年には、ワカサギ資源が多いことが予想される。こういう年の1月と2月の魚群にはかなり多くのワカサギ魚群が混在していると思われる。このため、1月、2月の魚群数をアユの相対資源量と判断するのは危険である。また、ワカサギの産卵が遅れた年には、3月の魚群にも多くのワカサギ魚群が混在する可能性がある。

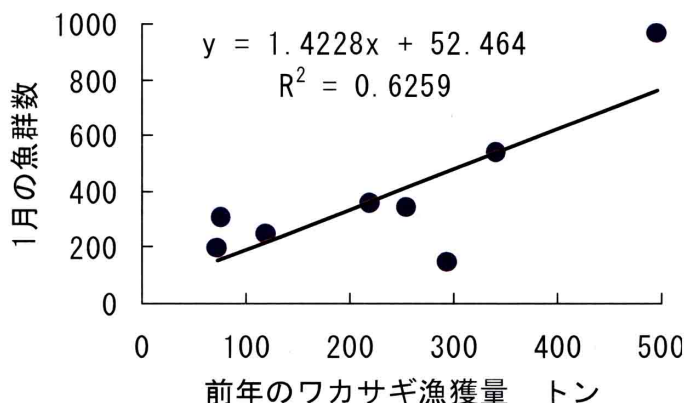


図1 前年ワカサギ漁獲量と1月の魚群数

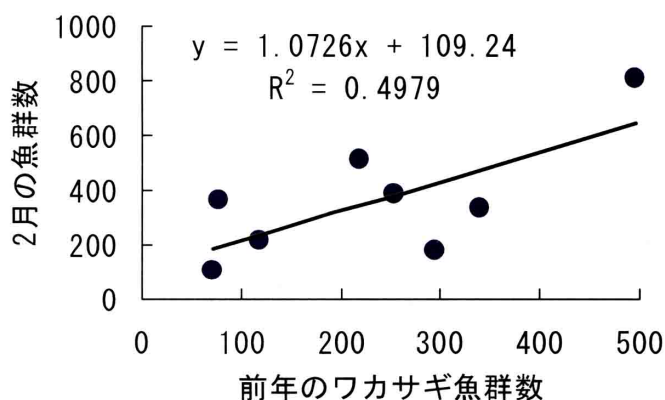


図2 前年ワカサギ漁獲量と2月の魚群数

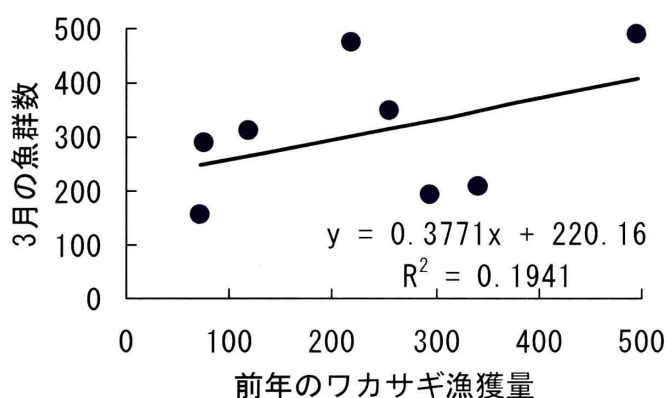


図3 前年ワカサギ漁獲量と3月の魚群数

表1 ワカサギ漁獲量と魚探調査での魚群量

	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
ワカサギ 漁獲量ト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	119	219	295	496	255	77	72	341	
1月	308	165	93	34	11	259	318	357	135	43	244	352	143	965	344	307	198	533
2月	441	212	399	90	38	357	500	216	82	50	214	508	176	805	383	362	101	335
3月	810	377	385	268	57	257	247	184	112	49	311	473	193	490	349	288	155	209